

第6回ICGの日本招致について

(ICG = International Committee on Global Navigation Satellite Systems)

1. ICG招致の意義

ICGは、国連宇宙空間平和利用委員会（COPUOS）において、世界各国・各地域の衛星測位システムについて広く情報交換を行うために設立された会合。当該分野について全ての関係各国の参加を得る唯一の国際会議であり、主要メンバー（プロバイダー国）は、衛星測位システムを現在保有し、または保有する計画を有している米国、ロシア、欧州、インド、中国、日本で構成される。毎年開催される総会は、メンバー国が持ち回りで開催することとされている。

ICGでは各国の測位衛星システムの共存性確保、相互運用性向上を目的とした国際ルール形成等について議論を重ねており、ICGを日本に招致し、そこでの議論に日本が主体的に参加することにより、準天頂衛星システム（QZSS）計画にとって有利な条件で国際ルール形成を進めることは大きな意義がある。

（参考）第1回（2006年）：オーストリア、第2回（2007年）：インド、第3回（2008年）：米国、
第4回（2009年）：ロシア、第5回（2010年）：イタリア（予定）

2. 会議の開催方針について

予算的・人的負担は、宇宙開発戦略本部事務局の全体調整の下、総務省、外務省、文部科学省、経済産業省及び国土交通省において、民間等の関与のあり方を含めて、今後調整を進めることとする。

3. 日程、場所（案）

日程 : 2011年9月5日（月）～9月9日（金）
※9月4日（日）夜に、プロバイダー国での打ち合わせ会合を実施
場所 : 東京（三田共用会議所（麻布十番））または東京近郊

4. これまでの経緯・今後の進め方について

- ・ 6月9日のICG第5回会合 第2回準備会合（ウィーン）において、第6回会合の場所、日程について報告した。
- ・ 10月のICG第5回会合（トリノ）において、可能な範囲でその他の詳細情報についても報告する。